

き　れ　い　な　空　氣　よ　い　水　を　求　め　て

会報 カンキョウ

Vol. 38

今年、登録10周年を迎える
「南アルプス ユネスコエコパーク」



photo:「チシマギキョウ」



photo:
「ホンドオコジョ」

県内優良施設見学研修会

- ①はごろもフーズ(株) 新清水プラント
②日建リース工業(株) 三保地下海水養殖センター …1

環境セミナー

- ごみの減量化・資源化の取組について …3

会員事業所の取り組み

- 中部電力パワーグリッド(株) 静岡支社 …4

第12回 排水処理技術セミナー

- かんきょうにゅーす …5

「県内優良施設見学研修会」参加報告

■DATA■

令和5年11月21日(火)

①はごろもフーズ株式会社 新清水プラント ②日建リース工業株式会社 三保地下海水養殖センター

令和5年度の「県内優良施設見学研修会」は会員・事務局13名が参加し、2社の見学をさせていただきました。

■はごろもフーズ㈱ 新清水プラント

1. 会社概要

はごろもフーズ㈱は、ツナ缶のトップブランドである「シーチキン」を代表的な商品とし缶詰やレトルト食品、パスタ・無菌米飯・かつお削りぶし・のりなどの製造販売をされている会社です。企業理念を「人と地球に愛される企業を目指します。」と掲げて食文化活動を通して食卓の笑顔・家族の団らん・人々の幸せを追求し、製品の源泉は地球の恵み・海や大地の産物と考えて資源を大切にし、まごころのこもった企業活動をされています。

新清水プラントは臨海部に立地する鉄骨4階建てで大地震発生時の津波浸水対策として主な製造設備を3階に配し、36万缶/日を2シフト(1シフト35名体制)で生産しているとのことです。

2. 環境への取り組み

SDGsを組織的に取り組んでおり、製品開発から廃棄までの重点課題を特定し推進されていました。リサイクル率の高いスチール缶・アルミ缶の使用やシーチキンの原料であるマグロ・カツオを守るために、魚肉以外の骨や



皮などは飼料や肥料に、魚を蒸した煮汁は濃縮してエキスとして調味料などに使うなど原料を廃棄することなく使われており、食品ロスの対応についても食べ切りサイズ製品の開発や賞味期限の延長に取り組むとともに、期限が迫った製品については「フードバンクふじのくに」等への寄贈を行うなど、様々な環境活動に取り組まれていました。

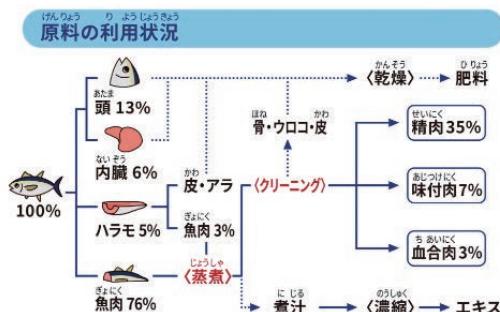
また、太陽光発電システムを導入し、5分ごとのタイムリーな発電状況の表示やエネルギー使用量は従業員全員が確認でき、プラント全体で環境に対する意識向上がされていました。



3. 感想

新清水プラントには、シーチキンの魅力を発信するためにメインターゲットである小学生に向けて、工場見学を学校に見立てた「シーチキンアカデミー」が開設されていました。プロジェクトマッピングによるダイナミックな映像を上映し、子どもたちが大人になっても「はごろもフーズ」のファンとなってもらえるよう、とても分かりやすく大人も夢中になるほどの映像と製造工程の見学ができる施設でした。

安心・安全な商品をお客様に届けるために衛生面、品質について徹底した管理をされており、最新機器による製造工程となっていま



した。原料の加工工程から梱包まで自動化による生産効率向上も図られていますが、重要工程については機械と人でチェックされ食への安全が確保されていました。

■日建リース工業(株) 三保地下海水養殖センター

1. 会社概要

日建リース工業(株)は建設用鋼製軽量仮設資材などのレンタル並びに販売、ユニットハウスや建設建材、運搬用の器材・資材のレンタル並びに販売を行っている企業です。

活魚をCO₂で眠らせて輸送時の負担を減らし新鮮なまま運べる鮮魚輸送機器をレンタル商品として扱っていたことから、三保の地下海水を用いた陸上養殖事業として「そこでしか食べられないさかなの価値を届ける」を合言葉とし、水産分野における事業開発を積極的に推進し、地下海水陸上養殖サーモン生産事業の成長を通じて、地域の水産業振興、経済・産業の活性化を目指しているとのことです。



2. 環境への取り組み

豊かな自然に恵まれた駿河湾の地下海水を、約27メートルの位置から汲み上げており、豊富なミネラルと栄養分を含み、年間を通して水温がほぼ一定で温度調節が不要である安定した海水のため、魚への負担も少ないとから養殖に最適であり、年間を通して健康でおいしい魚を生産できるとのことです。砂地である三保半島の土壤でろ過され無酸素で無菌状態のため、寄生虫や付着生物が生存できないクリーンな地下水になり、殺菌設備が不要なことからエコな養殖事業であるようです。

養殖の水槽から出てきた排水は沈殿槽を通して魚の糞や餌の残りを取り除き、折戸湾に排出しています。排水は毎日2回の計測と月に1回は専門機関で調査し、水質管理が徹底されていました。排水とはいって地下から汲み上げた海水は内湾の海水よりも



きれいな海水であるため、排水を通して付近の用水路は養殖事業を開始する以前と比べ、きれいになったとのことでした。



三保松さば



三保サーモンフライ

3. 感想

行政・地域が連携し東海大学の協力をいただきながら施設の建設を行ったとのことで、地元に根づいた事業であると感じました。陸上養殖のメリットとして必要な量だけ水揚げし、究極の鮮度で無駄のない出荷が可能です。「三保サーモン」は地産地消の食育の一環として小中学校の給食にサーモンフライとして提供されたそうです。また、地元水産会社が販売しているサーモンフライを使った「三保バーガー」は、「環富士山名物グルメグランプリ2023」で銀賞を受賞しました。サーモンだけでなくさばの養殖にも着手されており、「さば」は三保の松原のように地域を代表する特産品にという願いを込めて「三保松さば」と名付け、鮮度にこだわっての出荷であるため店舗限定であります静岡市内で食べることができます。

また、小中学生を中心とした見学会を開催し、エサやり体験や試食会を開くなどの取り組みは地元の良さを知ってもらうとともに環境教育として素晴らしい取り組みであります。ぜひ、継続的に実施いただけたらと思います。

おわりに

「優良施設見学研修会」開催にあたり、静岡市環境保全推進協力会事務局ならびに工場見学を受入れていただいた企業様に感謝申し上げます。

普段、見学することのない他業種の環境保全への取り組みなど参考になること多く、有意義な研修会がありました。今後も多くの方に参加いただき環境保全活動への意識向上に繋げていきたいと思います。

日立ジョンソンコントロールズ空調(株) 清水事業所 住吉 明



環境セミナー

Tuesday, February 20, 2024

ごみの減量化・資源化の取組について

講演1 事業系一般廃棄物の更なる減量と資源化について

講師 静岡市環境局廃棄物対策課 参事兼課長補佐 和田裕久 氏

講演2 プラスチックに係る資源循環の促進等に向けた事業者の役割について

講師 静岡市環境局ごみ減量推進課 参事兼課長補佐 萩原竜也 氏

今年度の環境セミナーは、「事業者向け ごみの減量化・資源化の取組について」と題して、脱炭素社会・資源循環型社会の構築に向け、事業者の皆様に取り組んでいただきたい内容や役割を、静岡市環境局廃棄物対策課 参事兼課長補佐 和田裕久氏と静岡市環境局ごみ減量推進課 参事兼課長補佐 萩原竜也氏に新たに施行された法律の概要や静岡市の取り組みを交えてご説明をいただきました。

■講演1

「事業系一般廃棄物の更なる減量と資源化について」

静岡市では、市内事業者の事業活動に伴って生ずる一般廃棄物の発生抑制、適正な分別及び保管、再生利用促進等の指導を行ことにより、事業系一般廃棄物の減量化を促進しています。その中で、今回は主に一般廃棄物の排出事業者向けに、事業活動における廃棄物の減量化・資源化のための取組例と市の新たな施策について次のテーマごとに説明をいただきました。



1. 事業系一般廃棄物について

オフィス、工場、店舗、病院、介護施設等の事業活動に伴って排出される廃棄物のうち、産業廃棄物以外の廃棄物の具体例や清掃工場に収集されるごみの分類割合や排出量の推移の説明がございました。

2. リサイクル可能な専ら物(もっぱらぶつ)について

専ら再生利用の目的となり、社会的にリサイクルのルートが確立されている4品目のうち、特に排出される割合が多い、紙類の分別徹底・リサイクルすることで約4割のごみが減る試算が出ています。

3. 企業の取組例と市の施策について

バイオマスを利用したリサイクルや、微生物を用いたリサイクルシステムを実現した企業の紹介や、環境省が取り組んでいる使用済み紙おむつの再生利用等の促進についての紹介がございました。

■講演2

「プラスチックに係る資源循環の促進等に向けた事業者の役割について」

令和4年4月に施行された「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」において、事業者が求められる役割について次のテーマごとに説明をいただきました。



1. プラスチック資源循環促進法の概要について

プラスチックの海洋流出、温室効果ガス発生、石油資源の枯渇などの諸課題に対応し、循環経済(サーキュラーエコノミー)を実現するために、プラスチック製品の入口(設計)から出口(廃棄物の処理)までの各段階において行政・事業者・消費者の各主体が取り組むべき事項を規定されています。また、プラスチックに係る資源循環の促進等を総合的かつ計画的に推進するための基本方針が定められ、関係者の責務や排出抑制、資源循環等に向けた取り組み等が規定されています。

2. 事業者の役割について

ごみを出す事業者は、プラスチック使用製品産業廃棄物等の排出の抑制・再資源化を実施することとなっており、事業者によっては目標の設定・情報の公開等が必要となります。

ものを作る、提供する事業者は、プラスチック使用製品設計指針に即した製品の設計や特定プラスチック使用製品の排出の抑制が求められます。

また、使用済みプラスチック使用製品の自主回収・再資源化のスキームも整備されるようになりました。

今回の講演を通じて、持続可能な社会を目指すために事業者だけでなく、我々一人ひとりが、身近なところから取り組めることも多くあると改めて気付かさせていただきました。

(株)静岡新聞社 木瀬健次郎

電気の安定供給を柱に、 地域のみなさまへ 安心・安全をお届けします。

中部電力パワーグリッド(株)は2020年4月、送配電事業会社として、中部電力(株)から分社して誕生しました。

また、2023年4月には多様化する地域課題やニーズを早期に捉え、現場が自律的に地域特性に応じたきめ細かな設備形成・運用を行うことを目指し組織再編を行い、2023年7月にはこれまでの支社・営業所・電力センターの機能を統合し、新たな静岡支社が発足しました。

当社は再生可能エネルギーの導入拡大をはじめとする外部環境の変化に的確に対応し、脱炭素化、電力ネットワークの次世代化および運用の高度化に関する取り組みを推進して、中部エリアおよび全国の電気の安定供給という使命を果たすとともに、地域のお客さまのニーズに寄り添ったサービスの展開を積極的に進めてまいります。

■中部電力グループ環境基本方針

中部電力グループでは、中部電力グループCSR宣言に基づき、環境保全に関する基本方針を以下のとおり定め、グループ一体となって取り組んでおります。

『中部電力グループは、地球環境に配慮した良質なエネルギーを安全・安価で安定的にお届けすると同時に、「コミュニティーサポートインフラ」の創造による「新しいコミュニティの形」を提供し、「一歩先を行く総合エネルギー企業グループ」として、持続的な成長を目指していきます。

この実現に向けて、環境経営を的確に実践するとともに、社員一人ひとりが自ら律して行動し、あらゆる事業分野における脱炭素社会・自然共生社会・循環型社会を目指した取り組みを通じて、持続可能な社会の発展に貢献します。』

■脱炭素社会に向けた中部電力グループの新たな挑戦

責任あるエネルギー事業者として、2050年の脱炭素社会の実現に向けた当社グループの新たな挑戦「ゼロエミチャレンジ2050」を2021年3月に定めました。脱炭素社会の実現に向け、「ゼロエミチャレンジ2050」のもと、社会やお客さまとともに、エネルギーインフラの革新を通じて「脱炭素」と「安全・安定・効率性」の同時達成を目指してまいります。

- お客さまへ販売する電気由来のCO₂排出量を、2013年度比で50%以上削減します。
- 保有する社有車を100%電動化します（※電動化に適さない緊急・工事用の特殊車両等を除く）。
- 事業全体のCO₂排出量ネット・ゼロに挑戦し、脱炭素社会の実現に貢献します。

■地域との共生

地域社会の一員として、安倍川や興津川の清掃活動、三保松原の下草刈りや清掃活動、市街地でのクリーンキャンペーンなど、本協力会はじめ各関係団体の主催する地域の清掃活動にも積極的に参加すると共に、事業場周辺清掃活動の定期的な実施などにより、環境活動に取り組んでおります。

また教育面では、子どものころからSDGsの考え方親しんでもらいたいとの思いから製作された「SDGsシール絵本」にも賛同し、地元小学校1年生へのシール絵本配布にも協力しております。



排水処理技術セミナー

【主催】静岡県資源環境技術研究会、静岡県環境保全協会、静岡市環境保全推進協力会 【共催】静岡県工業技術研究所

講演
1

排水処理技術の原理と処理方法の基礎

井辺技術士事務所 代表 井辺博光 氏

排水処理に関する基礎講座として、排水処理技術の原理から基礎までをわかりやすく説明していただきました。特に排水処理の基本である生物処理法、凝集沈殿法(重金属などを含む無機系排水の処理法)及び加圧浮上法について詳しい説明がありました。

講演
2

スグ効く! ヨク効く! 生物処理改善剤「源帰L」について

SUZUKI Lab.& Dev. 代表 鈴木誠治 氏

生物処理の場である活性汚泥のフロックや生物膜担体上の付着物は、広い意味で「生物膜」です。生物処理改善剤「源帰L」は、この「生物膜」をほぐし、内部まで水中の酸素や栄養を行き渡らせて微生物の動きを促進します。この「源帰L」のユニークな性能を利用して、活性汚泥処理の様々な不調、生物膜処理の性能低下(担体の閉塞や肥厚による)、MBR(膜分離活性汚泥法)の膜汚れなどこれまで対応が難しかった生物処理が抱える多様な問題に対して解決してきた原理と実例について説明されました。

講演
3

維持管理における生物相診断の活用

(株)西原ネオ ソリューション推進部マネージャー 横山菜穂子 氏

好気性の生物処理では活性汚泥法がよく使われています。活性汚泥の中には多くの微生物が共存していますが、その中には運転状況を反映し可視化できる指標生物も存在しています。生物相診断とは顕微鏡で活性汚泥を観察して指標生物等を見極め、維持管理やトラブル対応に役立てる技術です。

本講演では生物相診断の活用方法について事例を交えて紹介し、実施のポイントや微生物の見分け方についても解説がありました。



かんきょうにゅーす
Kankyo News

事務局からのお知らせ

通常総会、設立20周年記念式典の開催について

通常総会、設立20周年記念式典の日程をお知らせいたします。

1. 開催日 令和6年5月22日(水)
2. 会 場 静岡市東部勤労者福祉センター 清水テルサ 7階大会議室(静岡市清水区島崎町223)
3. 時 間 14時~理事会 14時30分~通常総会 15時~記念式典 15時40分~記念講演会

清水区三保クロマツ植樹地

第2回下草刈りについて

令和5年10月28日(土)に予定していました清水区三保クロマツ植樹地の下草刈りは、事前の現地確認で、作業の必要がないと判断したため中止になりました。

【令和6年3月31日現在会員数】 123事業所

随时会員を募集しております。詳細は事務局までお問い合わせください。

[発 行] 静岡市環境保全推進協力会 [ホームページURL] <https://www.shizuoka-kankyo-suishin.jp>
 [事務局] 〒420-8602 静岡市葵区追手町5-1 静岡市環境保全課内 TEL054-221-9373 FAX054-221-1186
 [表紙写真] 静岡市環境局環境共生課提供